

私の一冊

看護学科 永谷実穂 先生

井尾裕子著 『産婦人科診察室から』

小鹿図書館 : 495/I 61 (小学館)

私は、看護学科で母性看護を主に専門としています。産婦人科の領域で、女性のライフサイクルに合わせた関わりの多い領域です。そこで、産婦人科に関連した内容についての本を選定することにしました。

いま多くの方が健康に関しての関心も高く、自分自身の健康管理を自分自身で行うようになってきています。健康に関しては、ウェルネス(まったくの健康で輝くように生き生きしている状態。栄養、運動、休養の調和を図り健康づくりを行うことがその目的のひとつとしています。)の考えに基づいてよりよい暮らしを送るように変化しています。また、最近では、女性医学・性差医学と医学も広がり女性の健康を見ていく視点も変化し、女性外来も開設している病院が増加してきています。

女性の健康問題として、月経に関するもの、性感染症、貧血、摂食障害、妊娠中の栄養不足、定期健診を受けない妊婦の増加、更年期における不快症状、医療問題としては産婦人科医の減少など、女性特有の健康に関するものが列挙した中でも多いと感じると思います。女性は、年齢に伴って身体が変化していきますので、身体の変化に伴い健康問題がおこる事も人様々ですから、若い年齢である学生の皆さんをはじめ多くの女性の方に自分の体を知ること、自分の体を大事にしてもらいたいと考えます。きっと、私だけではなく女性を対象としている医療職の方はお考えではないでしょうか。

この本は数年前、「一般の人向けに女性の産婦人科医の先生の書かれた本はないか」と文献を検索した時に巡り合った一冊です。

本書は、1997 年に出版されたものですので、語句の中での医学用語が現在変更になっているものもあります。けれども、プロローグから難しい言葉はなく、わかりやすい言葉で書かれていて読みやすいと思います。妊娠・出産や婦人科に関すること、診察室で行われている実際の風景が描かれ、著者が診察している患者さんから励まされる内容などが含まれています。実際に治療している方の大変ながらも前向きに生きている姿を垣間見ることができる本でもあります。

また、読者への心と身体について考えてほしい著者の思いが綴られ、女性にとって知ってい

てほしいことについても盛り込まれています。

この本を読む中で、女性の身体について興味を持つことができるでしょう。そして、自分自身の健康について考えるよい機会となると思いますので是非読んでいただけたらと思います。男性の方は、少しでも女性の身体を理解をしていただくとともにパートナーとなる女性に対するいたわりの気持ちが少しでも増えていただけると幸いです。